映画とオペラ映像

根室市外三郡医師会
町立別海病院
山内　　修

現在コロナ禍の真っ最中です。自粛要請やステイホームなどで、映画とオペラを観る機会が増えています。両者は出典が同じものが少なくありません。その中で興味深い作品がありましたので紹介したいと思います。

『若者のすべて』ルキノ・ヴィスコンティ監督、アラン・ドロン主演、1960年。３年前にWOWOWで放送された４K修復版を観ました。旧約聖書・創世記の38～45章“エジプトでのヨセフと兄弟たち”をベースにしているようです。アニー・ジラルドの小悪魔的な演技に惹かれました。弟役ドロンと兄（レナート・サルヴァトーリ）との三角関係の行き着く先は果たして？　ドロンの代表作は一般に“太陽がいっぱい（1960）”とされていますが、私は“冒険者たち（1967）”の方が好きです。**オペラ**『エジプトのヨセフの伝説』はフランス人メユールが作曲、1807年初演。市販映像は現在このDVDしかなく、私はセコハン店にて千円で買いました。これはフランス建国200周年を記念して、1989年に演出家ピエール・ジョルダンによって公演記録されたものです。兄から奴隷として売られた弟（ヨセフ）がかの地で大臣となり、飢饉でさまよう父と兄弟を救う物語です。映画と話が違いますが、どちらも人間の業を感じざるを得ません。

『蜘蛛巣城』黒澤明監督、三船敏郎主演、1957年。シェイクスピアの“マクベス”を、日本の戦国時代に舞台を置き換えたものです。前の城主を殺して新たに城主となった男とその妻の顛末を描いています。ラストの主人公に雨のように降り注ぐ矢！矢！矢！　圧巻を通り越して恐怖を感じます。思い出すと下手なホラー映画よりも怖いです。黒澤・三船コンビの作品としては“隠し砦の三悪人（1958）”の次に好きなもので、以下“七人の侍（1954）”“用心棒（1961）”“椿三十郎（1962）”となります。“羅生門（1950）”は判定不能です。**オペラ**『マクベス』はヴェルディ作曲、1847年初演。私はカンパネッラ指揮のリセウ大歌劇場のライヴ（2004）をよく観ます。マクベス夫人のマリア・グレギーナが殺人を教唆し剣を取る場や、狂気の場は迫真の演技で見事です。演出は後に“マンマ・ミーヤ（2008）”の映画監督になるフィリダ・ロイドで、黒を基調とした簡素でいて迫力のある舞台を楽しめます。他の映像としてはシノーポリ指揮版（1987）、ウェルザー＝メスト指揮版（2001）、バレンボイム指揮版（2018）など５種類以上持っていますが、このDVDが私のお気に入りです。セコハン店にて2,650円で購入しました。

『炎上』市川崑監督、市川雷蔵主演、1958年。原作は三島由紀夫の“金閣寺”で、2015年の４K修復版ブルーレイで観ました。当時の住職の意向で驟閣寺になっているようです。父を亡くした吃音の徒弟が老師・母・学友・女性に裏切られ失望し国宝の寺に火を放つ物語で、中村鴈治郎・仲代達矢・中村玉緒など豪華なメンバーが熱演しています。三島氏は「主役の雷蔵君は最初から僕が推薦していた」と語っています。音楽は黛敏郎が担当し、当時は斬新過ぎるものだったと思われます。**オペラ**『金閣寺』はその黛敏郎作曲、1976年ベルリンで初演。今回は2015年12月に神奈川県民大ホールでのライヴを、2016年２月にBSプレミアムシアターで放送されたものを視聴し直しました。オペラなので吃音ではなく、右手が不自由な青年として演じられています。主役の小森輝彦はじめ皆がドイツ語での見事な歌唱です。そして、気鋭の演出家・田尾下哲の暗闇部と色彩光を上手く使った官能的な舞台、黛氏の能やお経を取り入れた音楽が私を５次元の世界に誘ってくれます。ただ、このオペラはCDがあるのですが、DVDなどは市販されていません。團伊玖磨のオペラ“夕鶴”と同様に日本が世界に誇れるオペラだと思いますので、是非映像として市販されることを望みます。

以上３つの対作品を書いてみました。まだまだ観たい映画やオペラがたくさんあります。オペラは外国語なのでCDで聴いても話がさっぱりわかりません。ですから、どうしても日本語字幕のある映像をありがたく視聴しています。

しかし、近年のオペラ演出は時代を現代に置き換えたり、中世の物語なのに機関銃やスタンガンが出てきたりとメチャクチャなものが主流になっているように思われます。今一度原点に返り、先進的な映像技術を使って大きな船や怪物や昔風な建物を描出したり、当時の衣装を最新技術で安価に再現して公演してはいかがでしょうか。そして４K８Kの綺麗な画質で視聴させてもらえたら感無量です。

映像ファンとしては、このコロナが早く終息し、新しい映画の製作・公開ができますように、また、オペラの公演が全世界でできますように祈念しております。